

1. 駅前通りの現状分析

●低層の建物が連なり空が広く感じる通り

- ・駅前通りの建物は、間口の狭い建物が連なり、歩く速度で店舗の種類や建物しつらえが変化し、高さがある程度揃った街並みを形成している。
- ・10m程度の低層の建物のため、空が広く感じる通りになっている。



●花壇やベンチなどによりうるおいと賑わいの演出がある

- ・デザインが統一された街灯や街路樹、花壇により賑わいやうるおいが演出されている。
- ・ベンチやのぼりなどにより店舗や飲食店の賑わいのにじみ出しが見られる。



●積雪地帯ならではの建築物の屋根形状

- ・駅前通りに面した古くからある建物は、積雪を考慮し後方へ向かって斜めに下がる屋根形状となっており、それらの建物が連なる風景は特徴的な景観となっている。



●商店街のまちなみに統一感が無く魅力を感じている人が少ない

- ・景観に関するアンケート結果より、商店街のまちなみに魅力を感じない人は、魅力を感じる人より多かった。
- ・その理由として、建物・工作物や屋外広告物の色彩やデザインに統一性がないという回答が最も多かった。

▼魅力を感じない理由 N=40(居住地周辺に商店街がる回答者のみ)



●JR俱知安駅を見通す景観と電柱

- ・駅前通りから正面にJR俱知安駅を見通す景観がある。なだらかな縁石により車道と歩道の境目を感じにくく、ゆとりを感じる駅前通りが形成。
- ・一方で、電柱の存在により道路の広がりを感じさせている。



●新しい建物と既存建物の壁面線の凸凹

- ・「建築物に関する指導要綱」に伴う駐車場の確保のため、歩道から壁面が後退している建物もあり、新しい建物と古くからある建物で壁面線が凸凹となっている。



●間口部分の歩道除雪の有無により歩行環境に影響がある

- ・空き店舗の増加などにより、間口部分の歩道除雪がされていないところがみられ、歩行空間の確保が課題となっている。



2. 駅前通りのあり方とは

●北海道新幹線俱知安駅周辺のまちづくり提言書「駅前通りのあり方」の振り返り

コンセプト: 歩く楽しみを感じて集まり にぎわい広がる駅前通り

(1) 立ち寄りたくなる商店街づくり

美味しいものや魅力的なサービスがあれば、おのずと人は来店します。さらに、お店を知ってもらう、みてもらうための情報発信や訪れやすい外観づくりも大切にしながら、もてなしの心で、歩く人の目線を意識した入りたくなる店をつくります。

活動や実施のイメージ	個々の店舗の努力で駅前通りに訪れる人が増えることを期待します。現在でも、入り口にメニュー表を掲げる、入りやすい雰囲気の外観や内装にするなど、努力をしている店舗が増えてきました。駅前通りの関係者自身がこのような努力を続けます。
------------	--

(2) 私たちが集まりたくなる居場所づくり

オープンスペースや今ある施設の活用により、子育て世代や小・中・高校生が集まりやすく、ゆったりと時間を過ごせる居場所をつくります。世代も地域も超えた交流の場をつくります。

活動や実施のイメージ	空地や空家、使われていない施設を活用することで、その場所を中心ににぎわいが広がることを期待します。例えば俱知安らしさである堆雪場所を遊び場にするなど、まちなかの遊び・集まれる場所を実証実験で試しながら必要なものをつくります。
------------	--

(3) 歩行者を最優先に考え、歩く楽しみを感じられる空間と仕組みづくり

私たちや他のまちから訪れた人も、歩いて楽しみを感じられるまちなみと仕組みをつくります。駅舎から外に出た人の印象に残るように、時と共に変化する魅力的な空間づくり、にぎわいを広げていきます。

活動や実施のイメージ	「他に楽しいことがないかな」「他に美味しいものはないかな」と集まった場所から次の場所を探したくなるまちをつくります。道路も“にぎわいの場所”と考え、歩行者の通行を第一に考えた道路空間へ転換し、また、歩行の妨げにならない駐車場の適正な配置を検討します。まちなみを眺めながら、子どももお年寄りも、暮らす人も訪れる人も安心して歩き楽しめる時間と空間をつくります。
------------	--

(4) 時代の変化に対応しながらまちを創りつづける人づくり

「俱知安は暮らしやすいよね」と思えるまち、「俱知安に暮らしたくなる・訪れたいな」まちをつくるため、まちは時代に合わせて変化していく必要があります。まちづくりに多くの人に関わってもらい、また、将来に向けて人材を育てていきます。

活動や実施のイメージ	多くの人の手によってまちをつくっていきます。暮らす人ももちろん、訪れる人も楽しいまちをつくり続けられるよう、まちの将来を担う人材も育て、お店、活動、イベント、勉強会などの様々な関わりをつくっていきます。
------------	---

2. 駅前通りのあり方とは ※続き

にぎわいと開放性を感じられる景観づくりの方針や取組事例

【愛媛県松山市：冊子「松山駅周辺・大手町通り景観まちづくりのポイント」】

■威圧感・圧迫感を抑える建物のデザイン



■緩やかにつながるスカイライン



神奈川県横浜市 元町商店街

■壁面やスカイラインが統一されたまちなみや、十分な幅の歩道と植栽で歩行者が回遊しやすい雰囲気



統一感のある街並みづくりの方針や取組事例

【富山県高岡市：高岡市新幹線新駅周辺景観形成ガイドライン（平成24年策定）】

■建物の色彩の配慮

- 周辺環境と馴染む配色を意識した色彩



■周囲と調和した形態意匠

- 周辺建築物や施設との調和に配慮
- 設備機器などの修景に配慮



■景観に配慮した屋外広告物

- 周辺と調和するよう、大きさや配置、色彩などに配慮



神奈川県横浜市 元町商店街

■景観に配慮したストリートファニチャーや屋外広告物

- まちなみに調和した色彩のパーキングメーターや足元灯、案内板が統一感を高める。



【石川県加賀市山中温泉】

■周囲との調和に配慮した駐車場や建物付帯物

- 駐車場や建築物の付帯設備には木質の柵で目隠しがされているなどの配慮が見られる



【愛媛県松山市：冊子「松山駅周辺・大手町通り景観まちづくりのポイント」】

■感度の高い屋外広告物

- センスの光る情報伝達
- 恒久的なデザイン
- 立体的な文字表現
- 賑わいを作るサイン



■存在感と協調の共存

- さまざまな技術を取り入れたファサードデザイン



居心地の良いパブリックな空間づくりの方針や取組事例

【愛媛県松山市：冊子「松山駅周辺・大手町通り景観まちづくりのポイント」】

■そぞろ歩きを誘うまちなみ



■人を呼び込む店構え



■おもてなしの取組

- 潤いの装置
- 安心を生む装置
- ほっとする装置
- 快適を生む装置



【富山県高岡市：高岡市新幹線新駅周辺景観形成ガイドライン】

【石川県加賀市 山中温泉】

■緑と優しい空間づくり

- 【駐車場の緑化等】
- 緑や花弁を配置した例
- ベンチを配置した例
- テーブルとイスを配置した例
- 日よけテントを設置した例
- ベンチと照明を設置した例
- 駐車場の舗装は素材や仕上げに配慮



■セットバックされた建物と、軒先の植栽



【愛媛県松山市 花園通り】

■既存建物を活かしたおもてなしの景観づくり

- 再整備計画により、既存建物を保持したまま、自転車置き場、ベンチの設置、看板デザインの統一や、オーニング、舗装や街路などの整備で、通り全体で、風通しの良い空間を創出。
- 個々の建物でも、軒先の緑化や、ベンチの設置、まちに調和した店先の立て看板、ガラス張りの店先などで、立ち寄りたくなるおもてなしの空間とオープンな印象を出している。



2. 駅前通りのあり方とは ※続き

●駅前通りの景観形成の方向性に配慮したイメージスケッチ

目線に入る高さにおける壁面緑化や木などの自然素材の利用、バルコニーでのプランター設置により潤いを演出し圧迫感を軽減したしつらえ

